
魔法少女リリカルなのはM E G A M A X S A G A

ゼロディアス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはMEGAMAX SAGA

【Zコード】

Z9302Y

【作者名】

ゼロディアス

【あらすじ】

ベリアル銀河帝国を壊滅させて早数ヶ月、ゼロが結成したグレンファイヤー、ミラーナイト、ジャンボット、そしてウルトラマンゼロのウルティメイトフォース・ゼロはダークロップスゼロと遭遇し、ロップスゼロの力により異次元へと飛ばされる。

そこは魔法、スーパー戦隊、仮面ライダー、星の戦士達、魔弾戦士、その世界のウルトラマンが存在する世界……。

魔法少女リリカルなのはMEGAMAX SA、始まります。

これはゼロシリーズのリメイク版です。

第1話『ウルティメイトフォース・ゼロ』（前書き）

ゼロシリーズのリメイクです。
ゼロまどは大丈夫な筈……。

第1話『ウルティメイトフォース・ゼロ』

ベリアル銀河帝国を壊滅させ早数ヶ月。

光の国¹のウルトラ戦士、ウルトラセブンの息子「ウルトラマンゼロ」は別の宇宙で出来た仲間、赤い炎の身体を持つ炎の戦士「グレンファイマー」、鏡を操る緑の線が身体にある銀色の鏡の騎士「ミラーナイト」、赤と白の巨大な口ボ鋼鉄の武人「ジャンボット」達と共に結成した新しい宇宙警備隊「ウルティメイトフォース・ゼロ」の4人はある小惑星に降り立ち、4人は話しあっていた。

『これにてパトロールは終了だな』

「ああ、ジャンボット。一旦光の国へ帰らねえとな」

グレンファイマーは大きく欠伸し、早く帰るよつに言つ。

「早く帰ろうぜ、こんな所いたら風邪退いちまう」

だがその時、こちらに幾つかの飛行物体が接近しているのが見えた。

「待てグレン！ こっちになにか近づいている！」

「あん？」

ミラーナイトの言葉で、グレンファイマーは上を見上げると1つ目の黒とオレンジの身体を持つ機械巨人……「ダークロープスゼロ」が腕を「」字に組みあわせて必殺光線である「ダークロープスゼロショット」をゼロ達に放った。

「ぐわあああ……？」

「……」

「くつそ、ダークロップスゼロだとー?」

ダークロップスゼロは胸部を変形させ、「デイメンジヨンコア」と呼ばれるものを出し、そこから相手を次元の彼方にまで吹き飛ばす超時空波動光線「デイメンジヨンストーム」が放たれ様としていた。

「させるかよー!」

「先制攻撃たあやつてくれんじえねえか!! ファイヤースティック!!」

ゼロと炎のステイック型の武器「ファイヤースティック」を持つロップスゼロに攻撃仕掛けるが、ロップスゼロは素早い動きでゼロとグレンファイヤーの攻撃を後退して避け、デイメンジヨンコアにエネルギーが充填される。

そして「デイメンジヨンコアから嵐を巻き起こす様な「デイメンジヨンストーム」がまずはゼロとグレンファイヤーに放たれる。

「「ぐわあああーーーーー?」

「ゼロー!」

『グレンー!』

ジャンボットとミリィーナイトがどうにか2人を助け出そうとするが、彼等もまたデイメンジヨンストームに巻き込まれてしまい、ウルティメイトフォース・ゼロはデイメンジヨンストームによつて割れた空、次元の彼方へ飛ばされてしまった。

*

此処はゼロ達がいた世界にあった地球とは別の世界の地球……。

その地球の「海鳴市」のある公園で、2人の少年が倒れていた。

「つてて……んつ？」

その少年は顔が若干「DOG DAYS」の「シンク・イズミ」に似ていたが、彼よりも凜々しい顔をしていた。

少年は隣で眠っている少年の姿を見る。

その少年は「フュイト・ゼロ」の「ランサー」に似ており、一向に目を覚ます気配がない。

シンク似の青年は自分の身体を見るも否も、目を見開きつつ顔をペタ触る。

「俺……地球人の姿になつてんのか……？」

実はこの少年、お気づきになつてゐる方もいるやもしけないが、ウルトラマンゼロが地球人の姿になつたものだった。

「じゃあこいつは？」

隣の少年は誰なのか搔さぶつて起^レして見る事に。

「つ、んつ？ だ、誰だ貴様！？ ジ、ジジはどうだー？ みんなは……！？」

目の前的人物がゼロである事に気付かず、ミラーナイトはゼロを睨みつけ身構えた。

「その声からしてお前、ミラーナイトだな
なぜ私の正体を……？ まさか、ゼロ？」

隣で眠っていた青年はミラーナイトが人の姿になつたものである。

「グレンとジヤンボットは？」

「分からねえ、あいつ等とはばぐれちまつたみてーだな」

兎に角、此処にいても始まらないのでミラーナイトとゼロは歩き始める事に。

「だが、ゼロはまだ地球の年齢ではそこまで小さかったのだな
「それを^レうのならお前もだろ」

ミラーナイトとゼロの見た目は小学生ほどである。

「じつかし、^レは見た所、親父達の^レてた地球だな」

ゼロやミラーナイトについて、今まで映るものは全て珍しいものばかりだった。

「そう言えば、地球人と出会つた時、名乗る時はなんと名乗る？」

流石に我々の名前をそのまま使つ訳には……

「そうだな……」

そこで2人は考えた結果、ゼロは以前同化していた人間の名前と、セブンが地球人の姿になつた時に使つていた名前の苗字をとつて「モロボシ・ラン」と名乗る事にし、ミラーナイトは「騎士鏡太」^{きし きょうた}と名乗ることにした。

*

その頃、グレンファイヤーとジャンボットは……。

グレンに至つてはランや鏡太と同じ様に人の姿になつており、フュイトシリーズのギルガメッシュに似ているが髪の色は赤の少年になつていた。

彼は森の中で倒れており、そこに1人の青年が駆けつける。

「グレン！ おいグレン！」

ジャンボットと同じ声を発する青年。

「うーん……。宇宙帝国ザンギャックとの戦いで失われたスーパーウォーリー戦隊の力を受け継いだのは……とんでも無い奴等だつた！！」「どんな寝言だそれは！？」

グレンファイマーの有り得ない寝言でシッ ハリツツ、青年はグレンファイマーを叩き起こした。

「いつてえ！？ なにすんだよ！？ あつ？ お前、誰だ？」
「ジャンボットだが？」

その青年は自分が「ジャンボット」であると言つてきた。

「なにいいいい！？ 焼き鳥！？」
「焼き鳥では無い、ジャンボットだと言つてこるだろ！？ ほり、水を持ってきたぞ」

実はジャンボット、身体を縮小させる機能がジャンボットの状態で使えることが出来るらしく、もしもの場合は人の姿に変わる機能まであつたらしいのだ。

そして、ジャンボットの容姿はガンダム〇〇のティエリア・アーティ似であり、グレンファイマーを起こして歩き始める。

「ゼロ達は？」

「分からぬ、ばぐれてしまつたようだ」

ジャンボットはグレンファイマーに此処はゼロの言つていた地球だということを説明し、ゼロの師匠「ウルトラマンレオ」の話を聞いたことがある為、一応地球人らしい名前を2人は考える。

「『岬炎斬』。 どうだ？ カッケエだろ？」

「ナオの名前を借りて『鋼ナオキ』といふ名前で行くか」

「おい、無視すんな焼き鳥！ 焼くぞ！」

こうしてグレンファイヤーは「岬 炎斬」、ジャンボットは「鋼ナオキ」という名前が決定した。

彼等もまた歩き出し、森を抜けて街を歩き、人気のない場所を歩く。

「にしても腹が減った……。肉が食いてえ！」

炎斬の腹が音を鳴らし、腹を手で押された。

「しかし、この星の金などは無いしな……。どうしたものか。私は一応別に何も無くても大丈夫なのだが」

そして耐えきれなくなつたのか、また炎斬は道端で倒れてしまつ。

「グレン！！」

*

一方、炎斬とナオキを探しているランと鏡太はまた先程と同じ、かなり広い公園に戻つて来ていた。

「グレンもジャンボットも見つからねえな」

「……」

静かに林ばかりがある場所を見る鏡太。

「どうした？ ミラー…… 鏡太？」

「ああ、林の中でなにか聞こえたような……」

その時、林の中からなにかが爆発するような音が聞こえ、ランと鏡太は急いでその場所に向かう。

そこでは、変わった服装をした少年が黒い怪物と戦つており、怪物は少年に襲い掛かるが少年は右手からバリアラしきものを展開。

だが、ランと鏡太が乱入して怪物を思いつきり蹴り飛ばした。

「「うおおお！」」

【グオオオ！-！？】

「ええつ！-？」

ランと鏡太の乱入に、驚きつつも、鏡太が少年に駆け寄る。

「君、大丈夫か！？」
「あつ、はい……」
「ここは僕達に任せて君は逃げるんだ」

しかし、少年は「いや、でも……」となにか言いたげだが、ランは左腕の銀色のブレスレット、「ウルティメイトブレスレット」からメガネ型のアイテム「ウルトラゼロアイ」を取り出す。

「ゼロ！ この少年の前で変身するのは……」

「仕方ねえだろ！ 生身でどうこう出来る相手じゃねえ！」

ウルトラゼロアイを目に装着し、ランは光に包まれてゼロの姿となり、頭に銀色の2本のブーメラン「ゼロスラッガー」が装着され、赤と青の身体を持つ巨人「ウルトラマンゼロ」に変身し、すぐさま怪物を殴り飛ばした。

「シユア！！」

【グコオオ！！？】

両手を「キキキキ」と鳴らし、ファイティングポーズを構えるゼロ。

「テーマの相手は……俺がしてやるぜ……」

第1話 『ウルティメイトフォース・ゼロ』（後書き）

炎斬の寝言はもちろん声ネタですw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9302y/>

魔法少女リリカルなのはM E G A M A X S A G A

2011年11月27日21時52分発行